

二〇二四年 安居開設にあたって

安居の願いと聴講の心構え

安居は、本派が行う学事を中心道場であって、広く真宗教学と仏教教理について論述及び攻究を行い、もって教学の振興と自信教人信の誠を尽くす教師を育成することをその本旨とする。

〔安居条例〕第二条

当派における安居は、享保元（一七一六）年、東本願寺「学寮」の初代講師である光遠院恵空が『大無量寿経』を講じたことがそのはじまりとされています。言うまでもなく、安居は本来、兩期の三ヶ月間に釈尊の教説を反復開思する機会であり、その伝統を継承する夏安居が、当派においては、江戸時代に「学寮」という形をとって制度化されました。

その意味で安居は、宗門学事の最高峰である「学寮」における研究・講義を象徴する研鑽の場として、現在にいたるまで伝統されてきました。現在、会場となっている大谷大学は、「学寮」の使命を継承・展開してきた学場であり、安居の歴史を体現する場と言えます。

安居は、現代の最先端の成果をもって行われる高度な学術探究の場であると同時に、教学そのものの第一義が、宗門教化に内容を与え、方向を示すものであることを考えるとき、それは単に学問的研究にとどまらず、そこに信心の実践がともなうことが期待されます。

教学に要請されるこのような在り方を、安田理深師は「僧伽の学」と教示されています。安居に参加するということは、決して単なる集中講義の受講ではなく、宗門という僧伽の歴史に主体的に参画する態度をもって研鑽することであり、条例に示される「教学の振興と自信教人信の誠を尽くす教師の育成」とは、その具体的な表現なのです。聴講する教師は、このことを自覚し、責任を持って臨んでください。



二〇二四年 安居開設について

一 期間

2024年7月17日（水）～31日（水）

※ただし23日（火）は休講日

開講式 7月17日（水）

満講式 7月31日（水）

二 場所

①開講式・満講式——真宗本願

②講義・攻究——大谷大学・宗務所

三 本講

講本「口伝鈔」

講者——嗣講 草野顕之

四 次講

講本「西方指南抄」

講者——擬講 山田恵文

※詳細は本誌66頁に掲載。

真宗大谷派宗務所 教育部

TEL 075-371-9193（直通）

2024年

安居開設にあたって

『口伝鈔』史考



草野顕之(くさの けんし)

嗣講。博士(文学)。一九五二(昭和二十七年)年、福岡県に生まれる。一九七六(昭和五十一年)年、大谷大学文学部史学科卒業。一九八一(昭和五十六)年、大谷大学大学院文学研究科博士後期課程満期退学。一九八五(昭和六十)年、大谷大学専任講師。二〇〇〇(平成十二)年、大谷大学教授。現在、大谷大学名誉教授。九州教区久留米三井組真教寺衆徒。専門は日本仏教史・真宗史。著書に『戦国期本願寺教団史の研究』『親鸞伝の史実と伝承』(法蔵館)、『真宗教団の地域と歴史』(清文堂出版)、『親鸞の伝記―『御伝鈔』の世界』『改邪鈔』史考』『本願寺の軌跡―創建から東西分派、そして現代へ―』(東本願寺出版)など。

本講 草野顕之

う成立の経緯が知られる。

また成立の時期については、奥書に「元弘元年〔辛未〕十一月下旬の時期、祖師聖人本願寺親鸞報恩謝徳の七日七夜の勤行中に、先師上人釈如信から面授口決した専心・専修・別発願を談話した機会に、伝承している祖師聖人のご領解、相承している他力真宗の肝要を、口述筆記させた」と覚如上人自身が記しているの

で、元弘元年(一一三二)の報恩講中のことであつたことが知られる。覚如上人六十二歳の時である。また、同奥書からは、『口伝鈔』が、第二代の如信上人から承けた口伝に加え、覚如上人自身が伝持する親鸞聖人のご領解、また相承している真宗の肝要などを含んだ聖教であることが明らかになる。

この度、二〇二四年の安居本講を拝命し、身の引き締まる思いである。講者は長らく大谷大学の歴史学科で教鞭をとってきたが、専門としていたのは日本仏教史であり、とりわけ真宗史を中心に学んできた。そのため、親鸞聖人の著述を始めとする真宗聖教に触れる機会は多々あつたが、それはあくまで真宗史を研究するうえでの資料として学ぶことが多かった。したがって、今回の安居においても、歴史的視点を重視して聖教を学んでいくこととしたい。

このような観点から、既に二〇一八年安居において次講を拝命した折、

その成立に歴史性を強くもつた聖教といわれる覚如上人の『改邪鈔』を取り上げた。今回拝読しようとする『口伝鈔』は、『改邪鈔』と並ぶ覚如上人の代表的な述作であり、『改邪鈔』と同じように、その成立には強い歴史的な背景を有していると考えられる。また、『改邪鈔』が破邪の書、『口伝鈔』が顕正の書ともいわれ、両書で破邪顕正を表されたものであるとも言われており、この両書を学ぶことによつて覚如上人の教えの全体像を学ぶことができる。

さて『口伝鈔』は、本願寺第三代の覚如上人が口述された二十一箇条

からなる聖教である。覚如上人の門弟である出雲路乗専の覚如上人伝『最須敬重絵詞』には、「親鸞聖人がご存命のときの言行を記され、関連する法語のあれこれを載せられた三巻の鈔がある、『口伝鈔』と号する。又末流が迷う間違つた道を塞ぐために簡条書きで規則を定められた一巻の書があり、『改邪鈔』という。ともに和字である。この二部は私が願

れており、『口伝鈔』はこの出雲路乗専の望みに依つて覚如上人が口述し、乗専が筆記したものであるとい

は、その第一歩を踏み出してはいたが、その本寺化をおし進めるための教学的裏付けを明らかにしようとしたの

が、『口伝鈔』であり『改邪鈔』であった。

今回の安居では、『口伝鈔』の二十一箇条が、それぞれ何を語っているのか学ぶことを通して、覚如上

人による本願寺本寺化への意思を伺っていききたいと思っている。

講本「口伝鈔」
テキスト
参考書

「口伝鈔」〔真宗聖典 第二版〕(東本願寺出版) 所収)
石田瑞磨『歎異抄・執持鈔』(平凡社)
細川行信『真宗教学史の研究2』(法藏館)
教学伝道研究センター『浄土真宗聖典』(本願寺出版)
重松明久『人物叢書 覚如』(吉川弘文館)

『西方指南抄』序説

次講 山田恵文



山田恵文(やまだけいぶん)
擬講。一九七〇(昭和四十五年)年、三重県に生まれる。一九九三(平成五年)年、立命館大学文学部文学科中国文学専攻卒業。一九九九(平成十一年)年、大谷大学大学院文学研究科博士後期課程真宗学専攻満期退学。二〇〇二(平成十四年)、課程博士(文学)。同年、大谷大学短期大学部助手。同講師、文学部講師を経て、二〇一七(平成二十九年)年、大谷大学文学部准教授。二〇二二(令和四年)年、同准教授退任。同年、大谷大学非常勤講師。三重教区三重組安正寺住職。専門は真宗学。主な論文に「漢訳〈無量寿経〉における生因願と重誓偈について」〔真宗研究〕第五十八輯、「親鸞と『西方指南抄』——「勢至」に關する言説を巡って——」〔親鸞教学〕第一〇七号、「獲得名号自然法爾御書」の考察——特に「獲得名号」の因果を巡って——」〔親鸞教学〕第一一四号など。

このたび二〇二四年度の安居次講を拝命し、聴衆のみならずともに、『西方指南抄』を学ぶ機会をいただくこととなった。恐らく伝統ある宗門の安居で、『西方指南抄』を学ぶ機会はこれまでになかったことと思

われる。この場を借りて、どのようなこの書を拝読していこうとするのか述べておきたいと思う。『西方指南抄』は、親鸞聖人が執筆した法然上人の遺文集である。三卷六冊の形態で、真宗高田派本山専

修寺に聖人の真筆本が所蔵されている。その中には、法然上人の法語や伝記、消息など全部で二十八篇の資料が収められている。現存最古の法然上人の遺文集であり、法然上人研究において価値ある資料集であるこ

とはもちろんのこと、親鸞聖人がそれを執筆しているという点において、親鸞聖人研究において重要な文献であることは言うまでもない。

この書の成立については、親鸞聖人が編集したとする編集説と、何らかの底本をもとに聖人が書写したとする転写説とがあり、現在でも論者によって見解が分かれている。これまでの『西方指南抄』研究は、成立問題を中心に、主として書誌的な観点から進められてきた感がある。今回の安居では、この成立問題は一旦措いて、親鸞聖人がこの書を執筆したという確かな事実立ち、そのことの意味を尋ねるとともに、収録資料の拝読を通して、聖人の思想との関わりを論究していきたいと考えている。

親鸞聖人は八十四歳から八十五歳の初めにかけて『西方指南抄』を執筆している。まずは、この時期の執筆が聖人にとって、どのような意味

2024年
安居開設にあたって

を持つ行為であったのか尋ねてみたい。たとえば、この書の執筆に先立つこと、八十四歳時の五月には、聖人は子息善鸞を義絶している。善鸞事件とその後の『正像末和讃』制作との関わりは先学によって指摘されてきたが、その間にある『西方指南抄』の執筆はさほど注目されていない。善鸞を義絶するという深い悲しみの中で、法然上人に関わる大部の資料を執筆するという行為は、聖人にとって、どのような意味を持つ行為であったのだろうか。その執筆後まもなく、「うれしさにかきつけまいらせたるなり」と『正像末法和讃』(草稿本)に書きつけられた夢告和讃とのつながりも無視できないと考えている。

また、『西方指南抄』は聖人の他の著作と同様、門弟のために執筆されている。そのため、門弟たちが読むことを想定して、漢字には読み仮名を丁寧につし、語句の意味を伝える左訓を施し、文節ごとに朱点を打つなど、読解の便に資するように様々手が加えられている。

さらに注目すべきは、聖人が必要ないと判断した所は、原資料から省略している資料があることである。たとえば、上巻(本・末)に収録さ

れている「法然聖人御説法事」は、法然上人の説法の記録であるが、異本との比較を通して、聖人による大部の省略があつて収録されていることが、先学によって指摘されている。聖人は省略という手法で、法然上人の説法の主意を明らかにして門弟たちに伝えようとしているのであつて、そこに聖人の思想表現を見ることができよう。今回、この資料の拝読を通して、親鸞聖人による法然上人の教えの受け止めを確かめてみたいと思う。

親鸞聖人の様々な著作や消息からは、法然上人の姿と教えとを憶念する聖人の姿が随所に窺えるが、『西方指南抄』はまさに聖人が法然上人に直接した師教聞思の書と位置づけることができるであろう。この書の拝読を通して、懸席のみなさまともにも師教を聞思する親鸞聖人の姿に少しでも近づければと思う。

講 本
テキスト

『西方指南抄』

『真宗聖典 第二版』

(東本願寺出版)

『定本 親鸞聖人全集』第五巻

(法藏館)

教行信証(坂東本)をいつも身近に!

顯淨土眞實教行證文類 翻刻篇 縮刷版

大谷大学 編

親鸞聖人の主著であり、国宝である『教行信証』坂東本を活字化。親鸞聖人の思索の跡が再現され、『教行信証』制作の真意にふれることができる。脚註や補註なども収録。

◆B6判・ケース入/788頁 定価:4,400円(税込)

本書は、宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌を記念して出版した『顯淨土眞實教行證文類 翻刻篇』を、宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃事業を機縁に、縮刷版として刊行したものです。

宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・
立教開宗八百年慶讃記念 聞法テキスト

① 一念多念文意・一念多念分別事 136頁

② 唯信鈔文意・唯信鈔 208頁

◆A5判 定価:各1,100円(税込)

宗祖親鸞聖人の著作に立ち寄り、学びを深めていただくことを願いとした聞法テキストシリーズ。本文に加え現代語訳、読解に資する注などを収録。

